

患者さんと関わっている時間が何よりも楽しく、また、『人の繋がり』を感じた時、看護師で良かったと思います。



医療法人たかまさ会 山崎病院

看護部 部長
看護師 宍戸美由貴 さん
医療専門課程25回生

一般病棟 課長
看護師 清水 泉 さん
医療専門課程44回生

今回は本校、医療高等課程（准看護科）の実習施設として、また多くの卒業生を職員として受け入れ、ご指導くださっておられるお二人にお話しをお伺いしました。

看護師を目指した理由

宍戸 幼い頃、姉が入院生活をしている時期があり、親はいつも病院に行っていました。私もよく姉のお見舞いに行っていたのですが、姉の世話で忙しくしている親にかわって、看護師さんが幼い私のお守りをしてくれました。おやつを食べさせてくれたり、遊んでくれたり。その温かく接してもらった『優しさ』に魅かれ、小学校高学年頃には「そういうふうになりたいな」と思うようになりました。

清水 私は看護師を目指す前は、この病院の介護老人保健施設で介護職として約3年間勤務していました。介護職として働いていくうちに、「自分に看護師の資格があれば、自分にもできることが増えるのに…」と思うようになり、35歳の時、資格取得のための進学を決意しました。

在学中の思い出

宍戸 私は病院に住み込みで働きながら学校に通っていました。当時の学生は皆、学校と勤務を両立しており、仕事で辛いことがあるとクラスメイトに意見を聞いたり、思いを共感したりして「辛いのは自分だけじゃないんだ」と励まされながらがんばっていました。同じ境遇だからこそ、理解し合える仲間であり、今でもお付き合いが続いています。

清水 幅広い年齢層が学んでいる点が良かったですね。クラスでは年齢が上の世代でしたが、若い子とも普通に会話はできたし、一緒に学んでいくことがとても楽しかったですね。スポーツ大会で大縄跳びを若い子と一緒にした時は、すごく新鮮でした。最初は「そんなこと、できんよ」と思っていたのですが、案外、若い子より自分に体力があることがわかったり（笑）。クラスみんなの仲が良かったし、苦労を共にしたからこそ私も看護部長さんと同じく、いまだに付き合いのある人がいます。

同じ学校の卒業生で良かったなと思うこと

宍戸 このインタビューにあたり、病棟の課長の出身校を調べてみたら広島市医師会卒でなかったのは一人だけで、あとは皆、医師会卒でした。

清水 課長補佐もそうですよね。それだけ広島市医師会卒が多い職場です。

宍戸 卒業年は違っても、教わった先生のことを話したり。

清水 「ああいう先生もいたね」って、当時は怖いと思っていた先生のことを思い出したりすることがありますね。

地域に根差した看護

宍戸 当院は先代の会長の、『地域で生まれ育った人を最後までここでみてあげたい』という思いからスタートしました。住み慣れた地域、馴染みのある土地で医療を提供し、そして自宅に帰れる支援を行うところに重きをおいています。

病院のほかに当院にはデイケア（通所サービス）も設け、在宅支援も行っています。体調が良い時はデイケアで、悪くなったら病院を受診という形で一人ひとりの生活を支えています。また、介護をしている方にとっても、デイケアにご家族を預けることで、自由な時間や介護から離れる時間をつくることできると思うんです。リフレッシュして、また介護に入っていける支援になればと思っています。

職場の雰囲気

清 水 看護学生って本当に大変だと思うんです。私は仕事と家庭、子育てをしながら学校に通ってました。確かに両立は大変でしたが、山崎病院だったから続けることができたのかなと思っています。当院は、みんなが何でも話しやすい環境であると思います。時には看護部長さんに「今は部長さんの立場じゃなくて、プライベートでお願いします」と言って、個人的な話を聞いてもらったりすることもあるんですよ。働くうえで人間関係はとても大事だと思います。

穴 戸 人間関係が良好でないと、患者さんに対して優しくできないと思うし、仕事も楽しくなくて、行きたくないとなるでしょう。職員にはいつも「嫌なことや腹が立つこともあると思うけど、気持ちを切り替えて楽しく仕事をしてほしい」と言っています。

清 水 業務量がたくさんあって辛い時でも人間関係が良かったら、『みんなでがんばろう！』っていう感じになりますね。

穴 戸 コロナの影響で規制されている部分も結構あり、職員にも何かしら不満もあるでしょうが、当院を辞めない理由として、「まあ、人が良いから」というのを必ず挙げます。もちろん人間関係は自分自身がつくっていかねければダメですが、環境づくりはとても大事だと思います。



ナースセンター前でドクターと一緒に。

看護師としてうれしかったこと

穴 戸 今は人事関係が主な仕事のため、患者さんと関わる機会が少なくなりましたが、当院はリピーターの患者さんが多いんです。以前、私が病棟で担当した方が外来に来られ顔を合わすことがあると、気軽に声をかけて話をしてくださるんです。やはり患者さんと関わっている時が一番楽しいし、『人の繋がり』というのを感じられた時はうれしく思います。

清 水 私は回復期リハビリ病棟で勤務していた頃の患者さんで、「どうしても家に帰りたく」と望まれた方が印象に残っています。

その方は、独居で誰も家に連れて帰ってくれる人がいなかったため、そのことを上司に相談したら、「あなたが付いていけるなら、帰ってもいいんじゃない？」と外出の許可がもらえました。すぐに病院の車を運転できる人に頼んで、その方を家に連れて行ってあげたんです。そうすると、家の中に入って何をやるわけでもなく、少し歩き回られただけでしたが、「自分では帰ることができないのに帰れた」と、とても喜んでくださって。

その方は今も入院しておられるのですが、一時でも家に連れて行ってあげられ、それからしばらくは喜んでくださっていたことがとてもうれしかったですね。

穴 戸 今はコロナ禍なので外出は自由にできませんが、患者さんは皆、『家に帰りたく』という思いがとても強いんです。そういった気持ちを叶えてあげられたら…と思っています。

清 水 入院患者さんは当院の近くにお住まいの方が多く、病院の窓から自宅が見える方もおられます。少しでも入院生活の不安やさみしさを減らせたなら窓まで一緒に行き、「あそこに家が見えるでしょ？」と話しかけると、「ああ」って安心され、それだけでも喜ばれるんです。



お二人の笑顔から信頼関係が伝わります。



お二人と病棟看護師の皆さん。

また、実習生といえど白衣を着たら患者さんにとっては病院の看護師と区別がつかないので、接遇には気を付けるよう心がけてほしいです。

清水 実習には積極性をもって臨んでもらいたいですね。患者さんとしっかりコミュニケーションを図り、「この患者さんにこういった援助を試してみたいんです」、「こういった計画を立ててみたのですが」と、自分が考えたことをどんどん言ってほしいです。言ってもらえたら、私たちも相談して、患者さんに問題がなければ実施の許可を出せますので。

仕事をするうえで大切にしていること

穴戸 「人の話をきちんと聞く」ということを気を付けています。話の腰を折らず最後まで聞く。患者さん、職員の話全てを聞いてから、一つずつ整理していくようにしています。

清水 やはり患者さん、ご家族のことを一番に考え大事に思う気持ちです。自分もそのことには気を付けているし、職員にもそう指導しています。コロナが流行する前は、患者さんの着替え、洗濯といった身の回りのことを面会時にされるご家族もおられました。しかし、今は面会ができないため、それら全てを職員が行っています。

確かに業務量は増え大変ですが、日々のケアや患者さんにとって生活の場であるベッド周りを清潔に保つことは、とても大事なことです。患者さんが生活しやすいように、また安心して静養してもらえ環境づくりを大切にしています。

実習病院として学生に期待すること

穴戸 コロナの影響で満足に実習へ行けない状況下だからこそ、生の経験ができる時はしっかり学び、吸収して行ってほしいですね。

そして、入院生活を送る患者さんの心理、「今、こういった気持ちになっておられるのだろうか」というところから考え始め、そこから入院生活を楽しくしてもらうには、「あれをしてあげたい」と考えられるようになってください。

穴戸 間違っていたら…とか思わないで、自信がなかったら、何でも質問してくれば大丈夫ですよ。

これから看護師を目指す人にメッセージ

穴戸 看護師を目指すには『優しさ』をもっていることが必要です。逆に優しさがない人には、何もできないだろうなと思っています。知識、技術といった努力をして成り立つものは、後からでもついてきます。しかし優しさは、にわかにつくれるものではなく、自身が今までに培ってきたものです。あなたに『優しさ』があれば、看護師はやっていけると思います。

また、『優しさ』は基本ですが、そのためには自分が満たされないと、人に優しくできないと思います。どんなことでもいいので、プライベートでは自分が楽しいと感じることをもつようにして、看護の勉強をがんばってください。

医療法人たかまさ会

「医療と福祉」の架け橋として、地域の人々の健康維持・増進、在宅医療に積極的に取り組んでおられる病院です。

内科、循環器内科、消化器内科、呼吸器内科、脳神経内科などの診療を行う外来と、一般病棟、回復期リハビリ病棟、医療療養病棟、介護療養病棟合わせて190床の病棟を有しておられます。

その他、介護老人保健施設、介護付き有料老人ホームも運営され、医療・看護・介護を通じ、地域の方が「その人らしい生活」を送れる支援を提供しておられます。

広島市東区上温品1-24-9
TEL (082) 280-1234 (代表)

山崎病院の紹介



山崎病院のホームページはこちら
<https://takamasakai.sakura.ne.jp/>